

志願書記入上の注意

1 この志願書は、選考の重要な資料となるので、**黒のペン(消えないインクのもの)**を用いて、**楷書**で正確詳細に記入すること。

なお、自筆で記入すること。(特別の事情があって自筆ができない等の場合は、志願書提出前に申し出ること。) この志願書に虚偽の記載をした場合や記載内容の秘匿があった場合などにおいては、採用を取り消すことがあります。(採用後であれば懲戒処分を行う場合があります。)

2 写真については、**写真票に貼付するものと同じもの**を使用し、裏面に「氏名」と「地域連携スポーツ教員」を記入してから貼付すること。

3 (2)の**性別**については、必ず記載すること。

4 (4)の**現住所**は、現在居住している住所(他県在住の場合は、福井県外の住所となる)を、**実家(帰省先)は、確実に連絡がとれるところを記入**すること。**電話番号**は、市外局番から記入すること。

5 (5)の**教員免許状**については、次の点に留意して略称で記入すること。

- ・教員免許状を所有していない場合は、所有なしを○で囲むこと。
- ・現在取得している教員免許状および取得見込の免許状は**受験する校種・教科等に関わらず、すべてを記入**すること。ただし、**同一の校種・教科等で複数の教員免許状をすでに所有している場合は、上位の教員免許状のみ記入**すること。

(例1) 中学校1種数学と中学校専修数学の両方を取得済の場合…中学校専修数学のみ記入

(例2) 高校1種英語は取得済、高校専修英語は取得見込の場合…両方を記入

- ・平成元年3月31日以前に小学校教諭、中学校教諭の1級または2級普通免許状を取得した者は、小学校教諭、中学校教諭の1種または2種免許状とみなして記入すること。高等学校教諭1級または2級普通免許状は、高等学校教諭の専修または1種免許状とみなして記入すること。
- ・**教科等**については、中学校の理・社・技・家・美・音、高等学校の理・地歴・公・農・工・商・家・美・音の免許状所有者は専攻科目を、また、保健体育は専門種目をそれぞれ()内に記入すること。(例)理科(生物)、社会(日本史)、家庭(被服)、音楽(ピアノ)、美術(油絵)、保体(陸上)
- ・幼稚園教諭の免許状を所有する場合も記入すること。
- ・**取得状況**については、該当事項を○で囲むこと。
- ・**免許の状態**については、該当事項を○で囲み、期限等を書くこと。(取得見込の場合は記入しない)
- ・養護学校、盲学校、ろう学校教諭の免許状を取得した者は、特別支援学校教諭の免許状(略称「特支」とみなして次のように記入すること。

	種類	教科等
盲学校専修	特支専	視覚
盲学校1種	特支1	視覚
盲学校2種	特支2	視覚

	種類	教科等
ろう学校専修	特支専	聴覚
ろう学校1種	特支1	聴覚
ろう学校2種	特支2	聴覚

	種類	教科等
盲学校特殊1種	自立1	理療
盲学校特殊2種	自立2	理療

	種類	教科等
養護学校専修	特支専	知的
	特支専	肢体
	特支専	病弱

	種類	教科等
養護学校1種	特支1	知的
	特支1	肢体
	特支1	病弱

	種類	教科等
養護学校2種	特支2	知的
	特支2	肢体
	特支2	病弱

- 6 **(6)の学歴**については、**高等学校等**には、卒業した高等学校・高等専門学校等を記入し、**出身学校**には専門学校、短期大学、大学等の学校を記入すること。学部その他に、課程またはコース等を記入すること。なお、卒業(修了)年月の「卒業・卒業見込」は、該当するものを○で囲むこと。また、**最終学校**には専門学校、短期大学、大学卒業後の学歴を記入すること。なお、**学歴**については、免許取得のための**通信教育**は記入しないこと。
- 7 **(7)の職歴**については、勤務先は辞令等を参考に正確に記入するとともに、各在職期間の始期、終期および職務内容についても正しく記入すること。
- また、**令和4年4月1日以降(見込含む)の職についても必ず記入**すること。欄が不足する場合は、志願書の職歴欄を参考に別紙(A4サイズ)を作成して同封すること。
- (職務内容例) 臨任講師、非常勤講師、会計年度任用職員等
- 8 **(8)の志望動機**は、具体的に記述すること。また、文字は枠内に収めること。
- 9 **(9)のPRや意気込み**は、スポーツ指導者として具体的にどのようなことができると考えているか、具体的に記述すること。また、文字は枠内に収めること。
- 10 **(12)の競技名**については、「ボート競技」または「アーチェリー競技」と記入すること。
- 11 **(13)の選手として出場した大会および実績**については、受験資格に合致している大会成績がある場合、大会名(正式名称)、主催、場所、開催年月日、成績(種目、階級、賞の種類など)を年度の区分ごとに記入し、最低1つ以上の大会での成績を証明する書類(賞状の写しまたは競技団体等が発行する成績証明書(開封無効)もしくは日本代表として出場したことを証明する書類(開封無効))を添付すること。
- 12 **(14)の指導者としての実績**については、受験資格に合致している実績がある場合、大会名(正式名称)、主催、場所、開催年月日、成績を収めた選手名、成績(種目、階級、賞の種類など)、指導者としての立場(監督、コーチ等)を年度の区分ごとに記入し、最低1つ以上の実績を証明する書類(賞状の写しまたは競技団体等が発行する成績証明書(開封無効)もしくは日本代表として出場したことを証明する書類(開封無効))を添付するとともに、指導者としての立場を証明する書類(プログラムの写しなど)も添付すること。
- 13 **(15)の賞罰**については、有の場合は該当年月日とその内容について、わかりやすく記入すること。なお、複数ある場合は改行し、1行に1つの内容を記入すること。(※「賞」は国際レベルの大会での入賞や全国レベルの大会での優勝か準優勝。「罰」は罰金刑以上の刑事罰および懲戒処分。)